

2018年9月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Îlonê 2018'ê



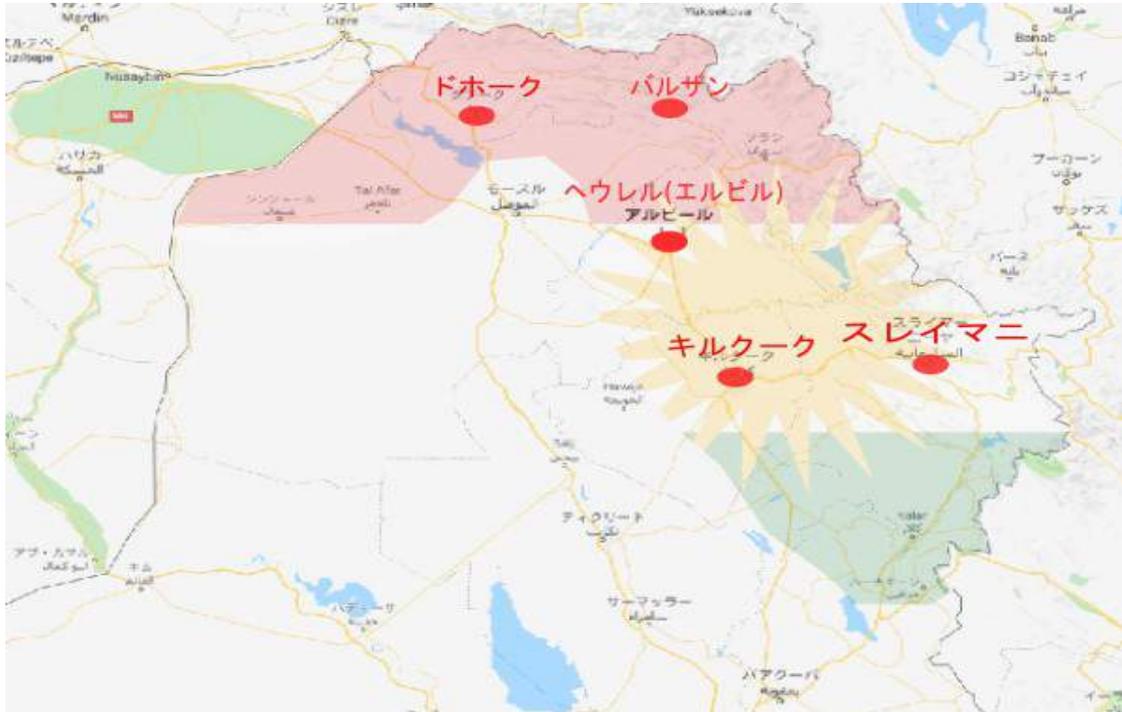
出典: パリ・クルド研究所



一般社団法人 日本クルド友好協会

南クルディスタン(イラク北部クルディスタン地域)

Başurê Kurdistanê



議会選挙

▶地域政治より中央政治

来月 30 日には、2013 年以來 5 年ぶりとなるクルディスタン地域議会の選挙が行われる。政党は、未だ樹立されないイラク新政府・議会での統一会派成立に向け、選挙での手打ちを行っている。独立を問う住民投票から今月で一年となるが、当時の熱狂や一体感が過ぎ去った今、政党間の馴れ合いムードを追認するだけの選挙への住民の関心は薄い。選管は、開票速報として[ヘウレル、スレイマニで6割にも満たない投票率を公表](#)した[30 日、ルダウ]。

クルディスタン地域政府(KRG¹)首相かつクルディスタン民主党(KDP²)副代表であるネチルワン・バルザニは、選挙実施に向けた調整のため、クルディスタン愛国者連盟(PUK³)から分派した勢力と会見を

1 英語名 Kurdistan Regional Government の略。クルド語では、Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：[クルディスタン地域政府大統領府公式サイト](#)

2 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。

3 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Nîzmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。

行った。民主主義と正義連合(CDJ⁴)代表バルハム・サリフは、[ネチルワンと共同の記者会見で選挙への不参加を発表](#)した[2日、クルディスタン 24]。ネチルワンはサリフとの会見で、[CDJに対しイラク議会内のKDP中心のクルディスタン会派に属するよう呼びかけた](#)[2日、ルダウ]。ネチルワンはゴラン(変化運動)代表とも会談を行った。ここでも議題は、中央政界で可能な合同のあり方であった。ゴランはKDPとの共同記者会見で、[選挙日程について批判を展開](#)した[4日、ルダウ]。KDP報道官は、ゴランとの間には多くの立場の違いが横たわると述べた。KDP関係者によれば、KDPはゴランとの関係改善を模索しており、二者会談が内定したという。選挙日程については、ゴラン以外からも批判が続出していた。選挙管理委員会は4日、[選挙運動解禁日を当初の5日から11日に変更し、選挙期間は短縮されることになった](#)[4日、クルディスタン 24]。

▶イラク大統領選

2003年のアメリカ軍の侵攻によってサダム・フセイン政権が崩壊した後、新生イラクの大統領にはPUK指導者であった故ジャラル・タラバニが就任した。2代目大統領もクルド人のフアード・マアスームであった。名誉職である大統領職は、クルド人のためのポストとなっている。クルディスタン地域の選挙と合わせて、18日より立候補の受付が始まった。先例に従いPUK関係者が立候補することで、KDPも合意することが期待されたが、KDP側は独自候補を擁立した。KDPは[フアード・フセインを大統領候補に指名](#)した[23日、ルダウ]。イラク大統領職は、PUKのためのポストではないという認識である。PUKは、[元PUKのCDJ指導者バルハム・サリフを候補に指名](#)した[19日、クルディスタン24]。PUKは、この機にサリフに対し復党の準備を進めているという。CDJ二番手のアラム・カディルは、[5月のイラク総選挙で獲得したイラク議会における2議席をPUKに渡すつもりはないと発言](#)した[24日、ルダウ]。一方PUKからはラティフ・ラシードが大統領選へ立候補し、党の公認ではないものの[撤退するつもりはないと発言](#)した[30日、クルディスタン24]。PUK広報は、公認はバルハム・サリフであるが仮にラシードが大統領に選出されたら歓迎すると、中立の姿勢を示した。PUKは、イラク新政府でクルディスタン地域のプレゼンスを高めるためKDPと協力を続けつつ、党内の紛争や分裂を収束させようとしているが、思惑通りには進んでいない。

▶少数民族の選挙

KRGは、シーア政府を自集団至上主義と批判し、少数派の保護を世界にアピールしてきた。そのためには、地域内の少数派が十分な議席を得なければならない。今回の選挙では、エジーディの政界進出

4 英語名：Coalition of Democracy and Justice クルド語名：Koalîsyona(Coalition : 連合) Demokrasî û Edaletê(公正)

に大きな課題が残ることが浮き彫りになった。エジーディはクルド系の少数民族である。しかし、同じクルド系でも差別の問題は厳然と存在する。IS から大量虐殺と奴隷化の憂き目にあつたエジーディは、ムスリムのクルド人から差別されることが多い。エジーディの候補者は、KDP と PUK からそれぞれ1人ずつの、[たった2人しかいない](#)ことが明らかになった[19日、ルダウ]。KDP の選挙対策担当者は、同党のエジーディ候補者掘り起しの努力について述べた。PUK も同様の取り組みをしているとされる。一方でゴランは、エジーディの多いドホークで3人の候補者を立てているが、エジーディは一人もいない。KDP—PUK は、エジーディのための議席割り当てを主張しているが、他の野党はこれを拒絶している。野党の主張としては、エジーディ保護はやぶさかではないが、KDP—PUK の議席獲得の具にされることを懸念している。

クリスチャンに対しては5議席が割り当てられている。今回の選挙では、[各党派から総勢18人が立候補](#)した[19日、ルダウ]。KDP と PUK は、以前の選挙において、割り当て議席目当ての候補者を立てたことで批判されていた。両党に批判的なゴランも、今回の選挙にクリスチャン候補者を立てた。「カルデア人並びにアッシリア人評議会」指導者シャムスディン・ゴルギスは、KDP に割り当て議席向け立候補を撤回することと、同党と同じ戦術を取るゴランの姿勢を批判した。

その他無視できないのはテュルクメン人の動きである。オスマン帝国時代の「モスル州」奪還を狙うトルコ大統領エルドアンを支持する、「テュルクメン戦線」のような勢力もあるからである。彼らに対してもクリスチャン同様5議席が割り当てられ、[8つの勢力がその議席を巡り選挙戦を戦う](#)ことになる[26日、ルダウ]。クルド系メディアの報道によると、多くのテュルクメン人が口をつぐんだという。その中で口を開いたテュルクメン戦線候補者は、テュルクメン人のメディアに対する警戒感に触れながら、多くのクルド人が失望する地域の経済状況を打開するため、議会での働きかけをしていくと述べた。

選挙違反

今年ヒューマンライツウォッチが、[クルディスタン地域における人権状況において否定的な報告書をまとめた](#)ように、公正な選挙の実施についても懸念がもたれていた。選管は[アメリカ、イギリス、カナダ、フランス、日本、韓国の6カ国の大使館が投票の監視にあたる](#)ことを明らかにした[26日、ルダウ]。ゴラン始め野党陣営も独自の監視体制を構築すると発表した。また、選管は投票日直前の29日、[軍・治安機関関係者の投票所への立ち入り禁止や、投票に際して身分証の確認の徹底](#)といった対策を発表した[29日、ルダウ]。

6月に実施されたトルコ総選挙における、政権与党による選挙妨害を彷彿とさせる、投票妨害、選挙違反行動が報告された。

政党の選挙監視員は、ロイターの取材に対し、[ある投票所にナイフを持った30人もの男が押し入ってきた](#)と証言した[30日、ロイター]。KDP支持者に殴打されたとされる、選挙監視スタッフの痛ましい姿は、SNSを通じ拡散された。



ある中東メディアは、Twitterにおいて[同じ身分証明書によるKDPへの投票用紙が、各地で使用されたと報じた](#)[30日、@AISuraEnglish]。PUKは当初選挙結果を拒否する構えを見せたが、[その主張を撤回した](#)[30日、クルディスタン24]。KRG副首相であるクバッド・タラバニが、選挙違反について断じるのは、「時期尚早だ」との判断を下したとされる。PUKは、選挙の公正さを巡って争うよりも、KDPとの協力関係という実利を取った。

キルクーク問題

ISの脅威

治安維持能力の高いペシュメルガの撤退と、その空白を埋める形で現地に居座るシーア民兵の治安維持における無能ぶりにより、ISは活発な活動を継続している。ISによる誘拐や暗殺は相変わらず頻発しているが、大きなテロ攻撃を実行する力も保持している。9日、[キルクーク近郊のパイプラインで、2発の爆弾が爆発し大火が発生した](#)[9日、イラクニュース]。ISは、主要拠点を失い大規模な作戦遂行能力はもはやなく、一部で囁かれる「復活説」もありえない。しかし、漁夫の利を狙う戦略(イラク中央・イランの傭兵であるシーア民兵とクルド勢力の対立)と、隙を突くという戦術は健在であり、最小の犠牲で最大の効果を発揮できるテロ活動に余念がない。石油インフラに対する攻撃は、同地の石油利権に関係する各国からの、イラク中央政府への圧力を強めことになる。ペシュメルガ帰還の機運は高まるばかりだ。

中央との交渉に向けたクルド側の大同団結

KDPとPUKは10日、[元大統領マスード・バルザニの執務エリア](#)で会談を行った[10日、ルダウ]。その声明においても強調されたのは、両党の結束とキルクーク問題への対処であった。11日には、クルディスタン共産党の事務所で、[各政党の関係者が集まりアラブ化政策へ対抗していくことが確認された](#) [11日、ルダウ]。

新政府樹立がままならずシーア勢力はクルド勢力の助けが必要なこと、またキルクークの治安が悪化の一途を辿っていることから、クルド側には有利な交渉材料がある。KDP—PUKは、[イラク中央の諸勢力とキルクーク問題について交渉する準備を進めており](#)、PUK指導部の一員によればイラク側も交渉を望んでいるとのことである[11日、ルダウ]。中央での交渉に先駆けて、現地ではクルド側に不利な妥協案が検討された。KDP—PUKは、アラブ、テュルクメン勢力による、[キルクークの原油収入を均等割りする目論見](#)を拒絶した[25日、ルダウ]。

トルコの侵略行為

クルディスタン労働者党(PKK⁵)掃討を名目にした、イラクに対する国際法違反の軍事行動をますます盛んに行っている。9日、トルコ軍はドホークの山地を爆撃し、エルドアン支持のテュルクメン戦線は、嬉々として[自前のサイトに投稿した](#)[9日、テュルクメン戦線]。トルコは、明確な軍事拠点を持たないPKKに対し、ゲリラが潜伏していると理由で民家を攻撃している。PKK系メディアは、[クルド人の農園が焼き払われていると、トルコ軍の空爆の非人道性を非難した](#)[12日、日報]。トルコ、PKK双方の戦果報告合戦も続く。トルコ軍は13日、[北部ザップで4人のPKK戦闘員を「無力化」したと発表した](#)[13日、アナトリア通信]。PKK側も23日、[バルザニ一族の出身地があるバルザンで、10人のトルコ兵を殺害したと発表した](#)[24日、日報]。

KRGとトルコ政府は、[トルコ領のジョルメルガ\(ハッキヤリ\)方面の国境開通で合意した](#)[24日、クルディスタン24]。KDPの拠点ヘウレルに近いという利点があるが、PKKの活動が盛んな地域でもある。トルコは貿易の利益でKDPの気を引きつつ、交易路警備の名目でクルド人同士を戦わせようとしている。

5 クルド語名、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。

ロジャバ(西クルディスタン、北シリア)

Rojavayê Kurdistanê



イドリブ解放

ロシアの詐術

シリア全土の解放を目指すアサドは、トルコの軍事介入を前にイドリブ解放の振り上げた拳を一旦下すことを迫られている。シリア内戦に介入するロシア、イラン、トルコは、[7日にテヘランでシリア和平に関する首脳協議の開催を決定](#)した[6日、「自由」紙]。17日、ソチにてエルドアンとプーチンは、[イドリブに非武装地帯を設立することで合意](#)した[17日、ロイター]。エルドアンは、イスラム過激派排除に向けてロシアと協力していくと表明した[17日、報道陣]。この合意で重要な点は、停戦の条件としてトルコは過激派の排除の義務を負うことである。旧ヌスラ戦線系勢力と「穏健派」を分離することは不可能だ。シリア反体制派は欧米、日本メディアが論ずるように、「過激派」と「穏健派」に分かれているわけではない。ある意味で、アサド政権に降伏するか、クルド人と同盟を組みシリア民主軍傘下に入った勢力を除けば、全ての反体制派勢力は「過激派」である。それはほぼ全ての勢力が、イスラム主義を掲げていることから明白である。また、反体制派戦闘員は傭兵として多くの組織を渡り歩き、今日は反体制派、明日はヌスラという者多い。組織レベルでも同じで、反乱勢力間での紛争、パワーバランスに従って、ヌスラと他の反体制派勢力は離合集散を繰り返している。つまり、ロシアは予めアサド政権がイドリブ解放

作戦を実施する余地を残している。ロシア国防相ショイグが、新たなイドリブ攻勢は無いと言ったのは、あくまで当面の話である[18日、ロイター]。その上で、停戦合意によってトルコの手足を封じている。

進展の無い和平協議が数度繰り返され、結局アレッポ、東グータの陥落を止められなかったアスタナを思い起こさせる。中身の無い議論を繰り返し、また形だけの停戦を結んでトルコを油断させる、プーチンの得意芸である。トルコの真意が、アサド、プーチンにとって納得のいくものであれば話だ。トルコはアフリンと同じくイドリブを恒久的な占領下におこうとしているため、アサドは直接的に、プーチンは遠回しに妨害しているのである。

アルカイダ系武装勢力「宗教守護団」は、非武装地帯地帯からの撤退を拒否したとされる[24日、シリア人権監視団]。トルコは、国家情報機構(MIT⁶)を中心に影響下にある反体制派勢力に説得を続けた。30日、非武装地帯からの反体制派勢力の撤退が、初めて確認された[30日、シリア人権監視団]。反体制派勢力は、スポンサーの顔を立てた。

トルコによる占領

トルコは、イドリブをアレッポや東グータとは異なり国境を接している地域として、避難地域や非戦闘地域といった名目による占領に並々ならぬ関心を示している。トルコ大統領府報道官が、トルコ軍の駐留のみがイドリブ攻勢を防ぐと発言した[8日、情況]。反体制派メディアは13日、非武装地帯の警備の名目でトルコ軍部隊がハマへ向かったと報じた[13日、スマートニュース]。トルコメディアも、トルコ軍の大部隊が、援軍としてイドリブと接するハタイ県に押し寄せたことを報じた[13日、アナトリア通信]。



6 トルコ語名 Milli(国家・民族) İstihbarat(情報) Teşkilatı(組織)の略。

エルドアン寄りの新聞は、トルコ軍の到来によってシリア・アラブ軍総崩れといった、荒唐無稽な戦意高揚記事を掲載した[14日、「新たな夜明け」紙]。

トルコがイドリブにこだわるのは、支援してきたシリア反体制派勢力最後の拠点であるからではない。イドリブが地中海への道であるからに他ならない。クルド勢力は、トルコのジェイハン・パイプラインの代わりになり得る、新たなパイプライン敷設を計画している。

アサドは、頭越しに決められた停戦やトルコによる占領を、黙って受け入れるのだろうか。アサド政権側メディアは、度々トルコ—ヌスラ占領下に潜入した空軍情報部諜報員撮影と称する動画や画像を公開している。アサド政権は、クルド勢力がアフリンにおいてゲリラ攻撃を繰り返しているのと同じく、占領妨害活動を続けていく。

▶人民防衛隊(YPG)の動き

アフリンで活動するゲリラ「オリーブの怒り作戦室」は、イドリブでもシャーム軍団他トルコの傭兵を暗殺している。来るイドリブ解放において、YPGはアサド政権勢力と共同作戦をとるのではないかという、憶測が広まっている。この憶測に対しYPG報道官は、イドリブに部隊は駐留していないと否定した[16日、ユーフラテスニュース]。イドリブ作戦成功のカギは、トルコ軍の介入を封じることにある。YPGは賢明にも、トルコ軍に格好の口実を与えることを避けた。

アフリン

▶占領統治を続けるトルコ

トルコは、アフリンを占領してから半年以上が経つが、未だクルド人ゲリラの活動を鎮圧することができない。YPGは、トルコ軍傘下のテロ組織シャーム戦線の基地を破壊し6人を殺害、その他の作戦を含め合計テロリスト15人を殺害したと発表した[4日、ユーフラテスニュース]。トルコ国営通信は、トルコ憲兵隊情報部と対テロ部隊の協力により、9名のクルド人ゲリラを捕らえ、その作戦の過程で2名が戦死したと伝えた[14日、アナトリア通信]。クルド人の抵抗運動によるトルコ軍傘下傭兵の死は、思わぬ形でトルコ国家の重荷になろうとしている。トルコの傭兵として従軍し戦死した戦闘員の家族が、補償金とトルコの市民権を要求していることが明らかになった[6日、状況]。

トルコは、犠牲を払いながらもアフリンの実行支配を強めようと努力を続ける。トルコ宗教省は、戦闘で損傷した北シリアのモスクの修復に、1億8千万円規模の予算を拠出することを明らかにした[13日、ト

ルコ詳報]。一見するとイスラム主義者が表面上唱える「相互扶助」に見えるが、北シリアにおけるトルコの占領統治と同じく、トルコの行政圏に含めようという思惑がある。2016年7月に発動した「ユーフラテスの盾」によって占領した地域には、トルコ警察の拠点を置いたり、トルコ領内から地下電線を引くなど実行支配を進めてきた。トルコは、[占領下のアルバーブで文化・スポーツ施設を建設した](#)と報じられた[28日、アナトリア通信]。



トルコが併合政策を取る中、クルド人ゲリラ「オリーブの怒り」は、同市にて[男性を殺害する動画](#)を投稿し、[MITの協力者を殺害したと主張](#)した[23日、ユーフラテスニュース]。

ISISを真似る反体制派勢力

トルコ軍の傭兵たる反体制派勢力が、クルド人からの略奪を公認されているは周知の通りである。さらに今、住民を捕らえ殺害を想起させる動画により家族を脅迫する、ISのような所業に手を染めている。トルコ軍傘下の戦闘員が、[アフリン在住の農民の首にナイフを突きつける衝撃的な写真](#)が、Web上に拡散された[1日、ハワルニュース]。



同じく投稿された動画において、戦闘員は農夫の家族に向けて多額の身代金を払うよう要求し、従わなければ農夫を殺すと脅迫していた。細部こそ異なるものの、IS が日本人を殺害すると脅迫した時、また後に殺害した時の動画と構図は同じである。



トルコのプロパガンダの下請け機関「ホワイトヘルメット」

「市民防衛隊」、通称ホワイトヘルメットは、日本や欧米メディアが報じる「白い」イメージとは裏腹に、ヌスラの処刑動画に映り込んでいたり、隊員とアルカイダの関係性を伺わせる黒い噂が付きまとう。トルコ国営通信は、[アフリンにおけるホワイトヘルメットの「活躍」](#)について報じた[6日、アナトリア通信]。北シリアでは既にクルド赤新月社が、戦災民の救助を行っており、改めてホワイトヘルメットに出向いてもらう必要はない。トルコが諸外国から批判の多いアフリン占領のイメージ向上のための道具にしている。アサド政権支持者は、アサド政権にも穏健な反体制派にも中立であるクルド人支配地域で活動できないのは、ホワイトヘルメットがアルカイダの一味である証拠だと主張している。この批判については、ホワイトヘルメット側の言い分もある。ホワイトヘルメット関係者は、トルコ国営通信の取材に対し、[クルド人支配地域では摘発されるので活動できない](#)というのだ[28日、アナトリア通信]。純粹に人助けだけしているのであれば、北シリア当局とて摘発する理由はない。人助け団体の顔をした純然たる反体制派勢力だからこそ、クルド人も彼らを警戒しているのである。

マンビジュ

郊外を徘徊するだけのトルコ軍

エルドアンは、マンビジュを巡る合意について、トランプに騙されたのではないかと気づいているようだ。エルドアン政権寄り新聞は、[エルドアンがマンビジュに何の進展もないことに不満を漏らしている](#)ことを

伝えた[4日、「朝刊」紙]。トルコにとっては形式だけの YPG 撤退よりも、トルコ軍が市中に進駐し YPG の息がかかったマンビジュ軍事委員会を一掃することが悲願である。アメリカ側は、YPG 本隊の撤退をもって合意は概ね達成されたとの立場だ。トルコ軍は6日、[41回目の警備活動を終了したと発表した](#) [6日、アナトリア通信]。相変わらず郊外をうろつくことしかできていない。当初はトルコ軍の到来に恐怖を頂いていたマンビジュ市民も、トルコ軍が市中に進駐することはないことに気付き始めている。ペンタゴンの発表によると、[トルコ軍が今後マンビジュに進駐することはない](#)とのことである[11日、クルディスタン24]。マンビジュ軍事委員会は29日、[マンビジュに接近したトルコ軍車両の写真を公開した](#)[29日、マンビジュ軍事委員会]。



どこまで立ち入ってもアメリカが許すか、試しているようにも見える。

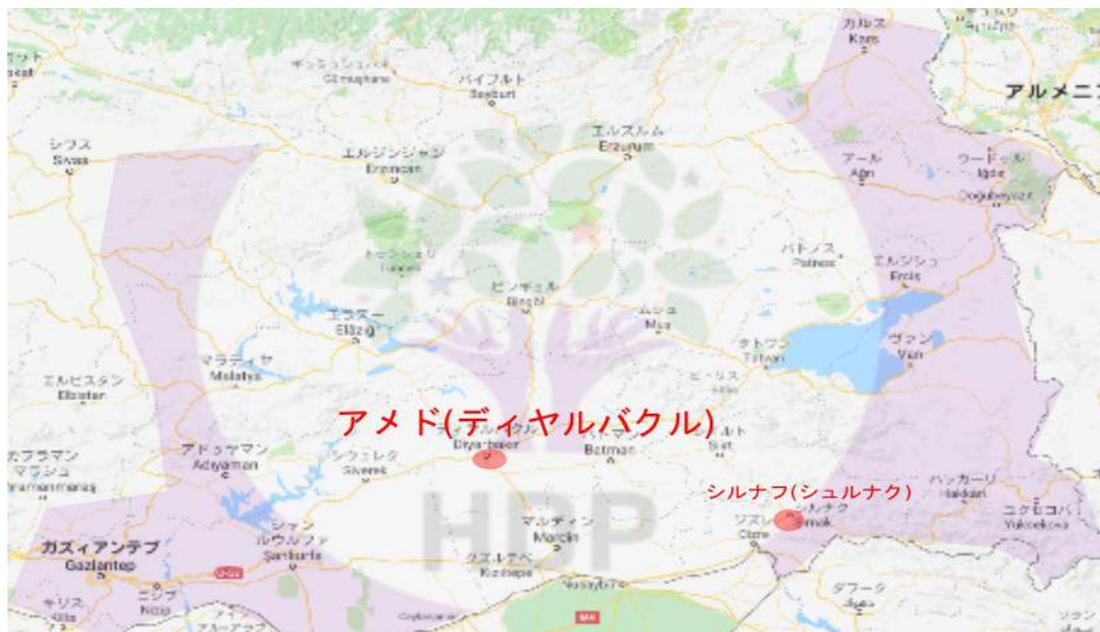
マンビジュ軍事委員会は、トルコの脅威へ対抗するため募兵と新兵訓練を継続している。19日、新たに [226人の戦闘員が訓練を終え、部隊に配属された](#)と発表された[19日、ハワルニュース]

トルコによる治安かく乱

マンビジュでは、トルコが進駐を目指して以来、テロ攻撃が散発的に発生している。12日、[マンビジュの通行路で爆発が発生し、1人が死亡した](#)[12日、ハワルニュース]。立て続けに、[14日にも爆発が発生し、6人が負傷した](#)[14日、ユーフラテスニュース]。18日には、[救急車に地雷が炸裂し乗員が負傷した](#)[18日、ユーフラテスニュース]。クルド側は、トルコがマンビジュの治安をかく乱しようとしていると考えている。

北クルディスタン(トルコ領南東部)

Bakurê Kurdistanê



アメリカとの緊張

リラ下落

エルドアンは、リラ防衛のためなりふり構わなくなってきた。トルコは、[ロシア、イランとの間に貿易においてドルを排除](#)していくことで合意した[9日、トルコ詳報]。シリア問題を巡り表面上協力関係にあるが、ここに来て制裁仲間にもなっている。合意について発表した。イラン中央銀行総裁によると、3国間は指定為替レートで取引を行うという。ロシアはともかく、イランとは潜在的な懸念材料がある。イラン製品が、トルコ国内の民族紛争の一つの理由になっていることは、既に指摘されている。所得水準が低いクルディスタンにおいては、安いイラン製品の需要は多い。トルコ当局は、PKKを国内への麻薬流入の主犯と厳しく批判してきた。PKKが、麻薬密輸に関与したことは間違いないが、一方でクルド人庶民の必需品密輸も行ってきた。

トルコは当面の運転資金のために、カタールに身売りを進めているのではないかという疑惑が広まっている。カタールは、エルドアンが私物化する福祉財団の理事に加わる予定である。野党共和人民党議

員は、この決定の背後にあるのは、[トルコ航空と人民銀行のカタールへの売却](#)だと主張している[18日、[状況](#)]。カタールは、サウジとの国交断絶の折、トルコから食料の輸送等の借りがある。

エルドアンは、ブランソン牧師の釈放を拒む一方、細かい妥協も同時に行っている。アンカラ裁判所は1日、8月20日に発生した[アンカラのアメリカ大使館に対する銃撃事件](#)に関係した6人の内、[3人に有罪判決](#)を下した[2日、「自由」紙]。当局によると、被疑者らは事件当時泥酔していたという。16日には、被疑者らがギョレン派に関係していることを、[当局は明らかにした](#)[16日、「自由」紙]。その根拠は、ギョレンの動画をシェアしたとか、ギョレン派が好むアプリをインストールしていたことである。反米事件を、ギョレンの陰謀論により幕引きを図った。

▶東のクルド、西のギリシャ

トルコは、既に NATO の辺境を守る要として用済みなのだろうか。アメリカ軍は、一大拠点であったインジルリク基地から徐々に撤退しつつある。奪取されたら取り返しのつかない戦術核は、エルドアンの強請の材料にされる前に、ルーマニアへ移送された。アメリカ軍は、[ギリシャにおける部隊を増強し、同国の基地の利用を強めていく方針](#)であることが明らかになった[4日、[軍事タイムズ](#)]。トルコとギリシャは、第一次世界大戦末期に行われたギリシャ人大虐殺他、歴史的なわだかまりがある。2016年7月に発生したトルコ軍部隊の叛乱騒動に加担した兵士が多数亡命し、トルコ政府への引き渡しを拒んでいることから、ギリシャへの反発は強まっている。トルコ外相チャブシオールは1日、[ギリシャは反逆者の安全地帯となっていると発言](#)した[1日、「自由」紙]。トルコ軍は、盛んに領空侵犯を行い、両国の緊張は高まっている。トルコは、既にクルド人政策におけるのと同様の戦略的失敗により、敵に強力な味方を与えてしまった。

トルコは、自国の地政学的、戦略上の価値を過信している。またエルドアンは、トルコ軍が NATO 第2位の兵力を誇っていることで、多少の無理は通ると増長してきた。もはやアメリカにとって、トルコは必須のパートナーではなくなっている。現代は、世界が東西陣営にとられる時代ではなくなった。さらに9・11以降テロとの戦いは、西側諸国の優先課題の一つとなっている。エルドアン政権は、この流れに逆行しイスラム化を進め、ISを擁護し欧米の信用を失った。アメリカが距離を置けば、トルコはたちまち敵対勢力に囲まれる。西はギリシャ、西南はキプロス、南はシリア、イラク、そして領内である東部はクルド人が控えている。北にはロシアが潜在的な敵国としてある。

クルド人への弾圧

クルド系政党の裁判

クルド系政党人民民主党(HDP⁷)に対する不当な裁判に一つの決着がついた。HDP 元共同代表デミルタシュに懲役4年8か月と他1名に3年6か月の懲役判決が下された[7日、ユーフラテスニュース]。テロ組織のプロパガンダを拡散した咎で有罪とされた。裁判自体が政治ショーなのであるが、当初トルコ政府が口にしてきた刑期よりも、かなり短いことも事実である。エルドアンは、選挙を乗り切りHDPの当面の脅威が消えたことで、むしろ過剰な弾圧によるクルド人び議会主義の放棄と、2015年終わりから2016年前半にかけて吹き荒れた武装蜂起の再燃を恐れている。デミルタシュには、まだ控訴申し立ての権利が与えられている。同じ容疑で逮捕されたもう一人の共同代表フィゲン・ユクセクダは、7回目の審理において無罪を訴えたが**拒けられた**[24日、「新たな夜明け」紙]。

暴かれた秘密作戦

トルコによるシリア領侵略作戦を主導し、その功績により昇進した**イスマイル・メティン・テメル**将軍の過去が、SNSで議論を巻き起こした[4日、ニューステュルク]。イラクのクルディスタン地域において、90年代のいわゆるクルディスタン内戦時代に、撮影されたとされる。また、一緒に写る男たちもトルコ人である。クルド服を来てカラシニコフ銃を担いでいることから、特殊作戦中であつたことは間違いない。



目的は、バルザニ側についてイラク領内における対PKK工作を遂行することである。エルドアンは、彼の過去の経験を踏まえ、クルド人居住地域への侵攻作戦司令官を命じたのではないかと見られている。トルコ人がPKKを「赤ん坊殺し」と非難することに対し、クルド側はトルコ国家による「偽旗作戦」だと反論する。すなわちPKK戦闘員のふりをした工作員またはクルド人傭兵が、クルド人非戦闘員を殺害す

7 トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。Halk はアラビア語で人民を意味する halq に由来する。

ることは多かった。そのような道義性を問われる作戦に参加した者が、栄転し国際法違反の外国領侵攻作戦を指揮する、トルコのならず者国家ぶりが露呈することになった。

PKKの動向

先月と変わらず、PKK、トルコ当局とも散発的な衝突について報告合戦を続けている。

特殊部隊広報サイトは、先月実施したシルナフ(シュルナク)における対PKK作戦について、[戦闘員を逮捕する様子を撮影した動画を公開し、成功をアピールした](#)[4日、特殊作戦テレビ]



[2、3人殺したような戦果を](#)発表するよりも、同志が情けなく捕まる様子を晒すほうが、クルド人ゲリラの士気低下に役立つと踏んでいる。

PKKの広報サイトは、[トルコの攻撃ヘリを破壊したと称する動画を公開した](#)[11日、ゲリラテレビ]。



重火器の損失を考慮すると、PKK側に軍配が上がる。2015年終わりからの戦闘の主力を担った都市ゲリラ部隊、「市民防衛隊」の動向は聞こえてこない。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojhilata Kurdistanê



クルド人反政府勢力への越境攻撃



▶異例の国境侵犯

イランにおける主要クルド人反政府勢力であるイラン・クルディスタン民主党(PDKI⁸)は6日、[イスラム革命防衛隊がイラク側にある同勢力の基地を砲撃したと発表した](#)[6日、クルディスタン24]。また8日には、イラク領コヤ(コイサンジャク)のクルディスタン民主党イラン(KDP-I⁹)基地に向けて、[ミサイル10数発が発射された](#)[8日、クルディスタン24]。KDP-I担当者は、多数の死傷者が出たと話した。また、ミサイルはPDKIの施設にも命中した。PDKIによると、[指導部メンバー1人が死亡した](#)[9日、ルダウ]。革命防衛隊は翌日、[KDP-Iの「テロリスト」を狙って越境攻撃を実行したと認めた](#)[9日、ファールスニュー

8 クルド語の党名、Partiya Demokrat a Kurdistanê Îranê の略。

9 英語の党名 Kurdistan Democratic Party – Iran の略。クルド語では、Hîzbî(アラビア語で党の意) Dêmuokratî Kurdistanî Êran(イラン)。

ス]。国境地帯であればともかく、ドウカン湖を越えてヘウレルからもそれほど離れていない、コヤへの攻撃は反発を招いた。PUKは、[イランの攻撃を批判する声明を発表](#)した[8日、日報]。KRG前大統領マスード・バルザニは、[イランの攻撃を非難](#)した[8日、バスニュース]。また、イラク外務省は、[革命防衛隊の攻撃に対し「主権の侵害」だと非難する声明を発表](#)した[9日、クルディスタン24]。イラクは、この声明にもあるように、イラク領内をイランの反政府勢力の避難地とすることを認めていない。つまりは、クルディスタン地域の山を少し砲撃するくらいであれば、目をつぶるということである。それを考慮すると、この攻撃が度を越していることが理解できる。

「法学者の統治」の危機迫る

イランは、長年の支配層の腐敗、経済成長の停滞による慢性的な高失業率を背景とし、最近のアメリカの制裁による輸入品の高騰、また水不足により反政府運動が頻発するようになっている。クルディスタンでは、テヘラン他で大規模なデモが発生する以前から、全域で反政府デモ、ストが起こったりと不安定化している。KDP-Iの情報によると、革命防衛隊は件の攻撃後、[幾つかの部隊を越境させ、ヘリやロケット砲といった重火器を国境地帯に集結させた](#)という[10日、ルダウ]。それだけ、クルド勢力の動きに過剰な対応をしている。イラン当局としては、反政府機運の高まりに乗じたクルド人勢力の動きを、牽制したつもりかもしれない。なりふり構わない行動が、逆にアメリカ含む敵対的諸勢力に、イスラム体制指導部の焦りを見せつける結果になった。

ラミン・ホセインの処刑

8日、イラン当局は、死刑判決を受けていたクルド人の若者[ラミン・ホセイン・パナヒの処刑を執行](#)した[8日、ユーフラテスニュース]。各方面からの助命嘆願を無視し、執行を強行した。前述のコヤ攻撃と同日に合わせたとも考えられる。イラク領内に亡命するイラン出身のクルド人達は、[ヘウレルの国連事務所前でラミン・ホセイン他クルド人の処刑とコヤ攻撃に抗議する集会](#)をした[12日、ルダウ]。ラミン・ホセインは、反政府勢力コマラに関係した容疑で逮捕されたが、無実であったとされる。冤罪でありかつ処刑までに時間を要したことで助命運動が盛り上がり、イスラム体制の犠牲者の象徴になってしまった。

文責：一般社団法人日本クルド友好協会 研究員 並木宜史

翻訳協力：同上 事務局長 ワッカス・チョーラク